

第5回	保谷第一小学校 学校運営協議会（要点記録）
日時	令和8年2月13日(金)15:30
場所	保谷第一小学校 図書室
出席者	吉村真理子委員長、児玉佑衣委員、牛村美香委員、稲澤志穂委員、有本唯委員、高田進委員、古賀卓夫委員、原之雄委員
欠席者	中野洋子委員、福田妙子委員
司会	藤本知子副校長
委員10名中、8名の出席、学校運営協議会規則第11条第2項の規定により、会議は成立	
次第1	校長挨拶
	<p>ご来校ありがとうございます。令和8年度に向けて、教育課程を作成中。</p> <p>●80周年記念を迎えるための準備をしている。</p> <p>●カリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度2月に研究発表を予定。認知行動療法について市内発表。今年度の研究リーフレット作成中、完成次第配布。 ・遠足を3～5年生に広げる。 ・休み時間の拡充(2週に1回、年17回)掃除ではなく遊ぶ時間を設ける、学期1回のピョンチャンプレイタイム(5.6時間目の自由あそび)。 ・学校評価ではいじめや差別に対する評価について保護者子どもともに低い。児童理解を深めていきたい。 ・教員の働き方改革。本来業務(子どもと関わる時間、学習指導)の質を上げる。事務量を軽減する。次年度から、1学期2学期の所見をなくし、面談に変える。 <p>●スクールロイヤーからの研修内容</p> <p>カスタマーハラスメントのガイドラインができた。 全ての人、カスタマーハラスメントをしてはならない。 社会通念を超える要望等を行うことはできない。</p>
次第2	報告事項
令和7年度学校評価報告	
研究推進	<p>2項目とも評価4</p> <p>タブレット端末を使った調べ学習、スライドでのまとめを行っている。特にICTを使うと一人ひとりの意見が反映される。今後も質を高めていく。</p> <p>デジタル教科書や動画を活用した指導を行っている。</p> <p>朝学習では、発達段階に合わせた課題に集中して取り組んでいる。更に基礎基本を定着。</p>
特別活動主任	レインボー班活動は月に1回、異学年交流。今は、6年生から5年生に引き継ぎをしている。
体育主任	体力テスト、短縄、持久走、長縄の体育朝会。苦手な子もいろいろな跳び方を知る。実技研修。
生活指導主任	<p>人権感覚の涵養</p> <p>月曜日の職員夕会後に、児童の良い面を共有している。</p> <p>全学級でSOSの発信について学期に1回以上指導</p> <p>校内委員会、生活指導夕会で児童の様子を共有。担任一人で抱え込まないように。</p>
教務主任	<p>学級通信、タブレットを活用して児童の様子を保護者に共有できている。保一サポーターでは、多くの保護者の協力を得ることができた。</p> <p>ふるさと探究学習、生活科や総合的な学習の時間で行ってきた。地域の方と連携をより一層深めることができた。継続的に協力していただける方もいる。</p>
特別支援教室主任	<p>指導効果検証のためにアドバイザーの観察日程が取られ、新規相談を受けにくい状況がある。対策として、回数を増やしたり新規の枠を増やしたりする。</p> <p>巡回システムになったため、保一小にしらうめ教員が勤務する日が少なくなった。</p>

副校長	会議の内容や、メンバーを精選。学期末事務整理日を取り入れる。子どもたちのために時間を使う、ライフワークバランスを取る。
次第3	報告事項
来年度の行事予定	
教務主任	4～6月に1～5年生遠足 秋に創立80周年記念 2月に研究発表
質疑応答	
質問	保一サポーターがたくさん参加しているとあったが、現在どのくらいの人数か。
副校長	年度当初約100名登録している。サポーターは、授業の補助。
質問	足りないということはないのか。
副校長	低学年では、もう少しいてくれると助かるが、無理なく参加してほしい。
質問	教育アンケート設問6「情報が発信されていると思いますか。」が低い。なぜか。
副校長	学級通信の有無によるものではないか。学級通信の写真がわかりにくいという意見もあったが、現在はカラーやデータでの配布は難しい。
校長	学級通信は、担任によって出すクラス、出さないクラスがある。必ず出すものにすると、授業の準備や子どもとの関わりがおろそかになる可能性がある。必ずやりなさいというものではなく、プラスαの部分。本校は出すクラスが多い。一律にするのではなく、任意にしている。保護者会などで、双方向のやり取りでクラスの様子をわかるようにする。
質問	差別、いじめについて。
校長	アンケート結果は、指導に活かすことが大切。実態も調査するが、子どもがどのように思っているかということは重要視しなくてはいけない
質問	「保一サポーター」は、年度当初に募集をかけるのは、毎年行っているものか。
回答	2年目です。
意見	先生一人だと大変なのでいいシステムだと思う。屋敷林保存協会では、11人手を挙げている。PTAから見ると大変なものなのだろうか。
PTA	働いている家庭が多く、家にいない。小さい子どもがいてできないこともある。サポーターをしている保護者は、「子どもの様子が分かって楽しい」と言っている。
質問	保護者は忙しいと思うので、祖父母世代に働きかけられないか。
副校長	そういう家庭もある。
意見	人は多いに越したことはない。人がいたほうが先生もありがたいのではないか。
校長	みなさんお忙しいので、分担制は考えていない。来ていただくことで、学校の様子を知ってもらえる。お父さんも来ている。親同士の繋がりになっている。学校だけ、家庭だけで育てるのではなく、両方で育てていく。
質問	アンケートがデジタル化している。デジタル化すると、回答数が低くなるという学校もあるが、第一小はどうか。
副校長	今回の回答率は63%、高くも低くもない。今後減るようであれば考えていく。
質問	特別支援教室が巡回型になったことによるメリットは？
回答	保護者の送迎がなくなったことで、壁がなくなった。

質問	しらうめの先生方が、保一小に常時いないということへの不安はないのか。
回答	いつしらうめの教員がいるか保護者に周知している。連絡が取れないわけではない。
意見	息子が3年生。火打石体験、洗濯板体験、七輪体験をやったりして、息子が楽しそう。子どもとのコミュニケーション、会話のきっかけにもなる。座学で学ぶよりも、体験した方が自分の中に残る。
副校長	七輪体験に関しては、屋敷林保存会の方々にご協力頂いた。
意見	七輪一つに、サポーターが一人つくことができた。材料等は、屋敷林保存会で準備した。
質問	学校は、いじめと思われることがあったとき、どのような対応をするのか。
校長	いじめの定義だけでいくと、誰でも加害者になる。いじめ対策委員会がある。事実を確認し、いじめの定義に従って加害児童、被害児童それぞれの保護者に連絡している。加害とされた保護者の方には驚きもある。気持ちはわかるが、公立の小学校なので定義に従う。「加害＝その子はすごく悪い子」ではない。
次第4	事務連絡
連絡	鯉のぼりの掲揚する。こどもまつりは5月16日を予定している。
副校長	来年度 4月下旬に第1回学校運営協議会実施予定 1年間ありがとうございました。
以上で第5回保谷第一小学校学校運営協議会を終了する。	